

苦小牧市医師会

医師

菊地 芳彦

質問コーナー

「いわゆるむちうち損傷」

【質問】 六年前、二週間に二度追突され二カ月間入院しました。現在も治療中ですが症状の回復がありません。症状は左肩甲骨、左半身（腕、わき腹、背中）と右腕が痛みます。頸椎（けいつい）の五番、六番がつぶれているとのことですが、追突が原因でしょうか。つぶれていることで、身体の各部が痛むのでしょうか。（苦小牧市、女性、

当該事故に起因かどうか

なり左右に分かれて出ていきま
す。高所よりの転落、交通事故、
労災事故などで強い外力が加わ
りますと、せきついの骨折、脱
臼、つい間板、じん帯、せき髄、
神経根損傷などが起こります。
神経根の損傷による症状は片側
性ですが、せき髄が損傷されま
すと、特殊な場合を除いて両側
性となります。

けい髄損傷では、体幹の上の

42歳)

【回答】 回答する前に、ま
ずけいつい、せき髄周辺の構造
について申しあげます。けいつ
いは七個、肋骨のついている胸
ついは十二個、腰ついは五個よ
りなり、せき髄は下の方では馬
尾神経という神経に分かれてい
ます。せき髄はせきつい、硬膜、
じん帯などで保護されており、
この中から神経根、末梢神経と

方から知覚障害が起こり両側上
下肢の運動マヒが起こります。

もちろん損傷の程度により、不
完全マヒまたは完全マヒとなり
ます。ところでせきついの骨折
は上下肢の骨折と違って楔（く
さび）状または扁平に圧縮され
たり、時には粉碎骨折となる事
があります。また、けいついは
胸つい、腰ついに比べて解剖学
的構造が多く、骨折だけでなく、

けい間関節の脱臼を伴う脱臼骨
折となることしばしばありま
す。交通事故によるけいついの
外傷ではねんざ、神経根、自律
神経、せき髄、じん帯損傷が起
こってきますが、せき髄が損傷
されると両側性のマヒの症状が
起こります。しかし、自律神経
の損傷でも自覚的に両側性また
は受傷部位より離れた各所に痛
みを訴えることがあります。け
いついを連結しているじん帯が
損傷されるとレントゲン写真上
でけいついの前後屈でズレが出
てくる場合があります。以上は
外傷を受けた場合ですが、加齢、
老化現象によりつい間板が変性
しますと、反応性の骨棘形成つ
い間板の入っているつい間ちつ
が狭くなったり、時にはじん帯
が弱くなってズレが出てきて、
せき髄や神経根の症状が出たり
することもあり、また炎症やし
ゆようでもけいついやせき髄、
神経根の変化が出てきます。年
齢的なせきついの変化がある人

質問コーナー

「いわゆるむちうち損傷」

は外力を受けると何ともない人よりは症状が強く、また持続することがあります。

ところで、ご質問のけいいついの五番と六番がつぶれるほどの変化が出るため肩には相当強い外力を受けたことが考えられますが、以前の二回の交通事故の車の破損状況がどの程度のものであったのかよく解りませんし、前述のように交通事故以外の原因でも結果的に似たような症状を呈することがありますので、現在のけいいついの変化、または身体症状が当該事故に起因しているかどうかは、担当の先生に詳しく説明していただくのが最良であると思います。

お問合せは、苫小牧市医師会

電話 33-4720へ